



福岡人らしさって、
どんなところ？



伊藤晴子

先日、新しくなった博多駅に行ってきました。あまりの人だかりに、お目当ての店は諦めて…(涙)。この賑わいが一段落する頃、九州新幹線と博多駅の本当の実力が試される時ですね。福岡らしさ、博多らしさをPRして行ってほしいです。そんなわけで、今回のスタッフ日記のテーマは「福岡人らしさって、どんなところ？」でお送りします！

佐賀県出身の僕としては、控えめでおとなしい佐賀県人比べて、福岡の人は進んでいて、主張もしっかりできる人というイメージがありました。福岡に来て15年になりますが、やっぱり福岡人ははっきりしていますね。あと明るい人が多いです。うちの社長を見ていると「福岡人だなあ」と思います。あ、それから、僕は佐賀弁がなかなか抜けきれなくて、仕事中ときどき佐賀弁が出てしまいます。15年たった今でも気をつけて話すように心がけています。



初めて庭に芝生の種をまいてみたのですが、ハトが来て種を食べてしまうんです。それで庭を何区画かに分け、1区画ずつハト避けネットを張っては種をまいています。こんなに手間がかかるとは…すると社長が一言「人生と一緒に…深いですね(汗)」。



重富幸治郎

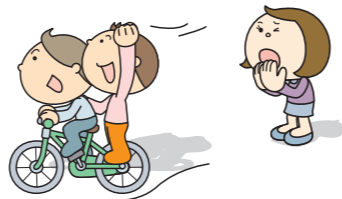
20代の頃、勤めていた会社の前を、博多山笠が通っていました。それを見物するたびに「わあ、私もかきたい(かつぎたい)」という衝動にかられまして…血が騒ぐって言うんでしょうか…その時ばかりは「男に生まれたかった」と思っていました。福岡生まれで福岡育ちの私は、小さい頃から川端通りの飾り山を見物して、山笠期間中の男の人たちの勇ましい姿や団結している様子を見るのが好きでした。福岡人って、やっぱりお祭り好きなんですかね。



実松千恵子

先日、姉と来生たかおのライブに行ってきました。姉がずっとファンで。ライブなんて、結婚してから2回目！ピアノの弾き語りについてうっとりし、その後バイキングで食事し…すご〜くりフレッシュできました。たまにはいいですね。

長崎出身の私は昔から、福岡は都会のイメージで、九州の中で一番流行を先取りしている人たちだと思っていました。人情に厚くて、何かあった時に一人が声を上げれば、一気にみんなが集まるような熱い人たち。福岡に出てきて随分経ちますが、街並みはさらに華やかになりました。残念なのは車や自転車のマナーの悪さですかね。ちょっと悲しくなります。なんとかしたいですね。



韓国語の勉強を再開しました。今回は3カ月間のプライベートレッスンを受けて、鍛えられてます。宿題も多いので必死です(汗)。なんとか1年でマスターして、来年は社長の韓国出張に、通訳としてお供するのが目標です！



沖知美

月刊 つばさ



2011年5月号

あなたと、あなたのお店を訪れるお客様の健康のために、お役に立てたら幸せです。

一人ひとりが、日本全体が、 タフであり続けるように。



3月11日の東日本大震災から2カ月近く経ちました。当初のショックから少し落ち着いて、状況を判断してみると、日本を取り巻く環境に変化が起きています。原発からの放射能汚染を懸念して海外では、日本製品を放射能チェックしたり、輸入拒否する国も出てきました。「安全で安心」がお家芸だった日本のこんな姿を、誰が想像できたでしょうか？一日も早く信頼を取り戻すため、国を挙げて取り組んでほしいと、切に思います。

日本は原爆の被害からも立ち上がり、戦後の復興を成し遂げた強い国です。今回の災害からも必ず立ち直ることでしょう。でも、完全に元どおりになるまでには、時間がかかるかもしれません。その間、被災地の方たちが、復興に取り組む方たちが、そして日本のモノづくりに関わる方たちが、心も体もタフであり続けねばならないのです。

国民一人ひとりが自分の体を健康に保つこと…ORTICが打ち込めることはこれだ、と思います。微力ではありますが、被災地のお客様に有機青汁と水を送らせていただいております。十分な食事ができない時こそ、有機野菜の栄養素を摂取していただき、明日への体をつくっていただけたらと願いをこめて。そして、免疫力のある体と粘り強い心が、明日の日本を変えていけると信じています。

日本が復興を成し遂げるその日まで、それぞれの持ち場で頑張りましょう。私も頑張ります。

日本が復興を成し遂げるその日まで、それぞれの持ち場で頑張りましょう。私も頑張ります。



株式会社ORTIC
代表取締役 伊藤晴子

サプリはなし 新商品ができるまで～パッケージデザイン～

ORTICでは、お客様のブランドで新商品をプロデュースさせていただくOEM(受託製造)を承っています。このコーナーでは、新商品開発の際に役立つ情報をお伝えしていきます。今回はパッケージデザインについてです。

健康食品や化粧品のパッケージの場合、主原料が大きな訴求ポイントになることが多いです。主原料となる素材の色や効能をイメージさせるデザインを用い、商品名もストレートに商品素材が伝わるようにします。どんな注目素材を使った商品なのか、直感的に伝わるパッケージであることが重要です。さらに、その素材が高品質である場合、同じカテゴリー商品の中でもワンランク上の商品イメージを出すことも大切になってきます。

主原料のイメージが直感的に伝わるパッケージ

メインのお客様層に好まれるパッケージ

購入されるお客様層に特定の傾向がある商品、または、メインのお客様層をあらかじめ設定して開発された商品も少なくありません。その場合、メインのお客様層にとって好感度の高い色やデザインにすることも大切です。たとえば、コエンザイムQ10のサプリは、メインのお客様層が40～50代であることがわかっています。その場合は40～50代がどういう色やデザインを好むのかをまずリサーチしてから、パッケージデザインを考えます。

訴えたいポイントがたくさんあることは、商品としては良いことですが、パッケージという限られた枠の中で、そのすべてを伝えようとすると失敗します。あれもこれもと考えるのではなく、「何がいちばん伝えたい訴求ポイントか」「その次に伝えたいポイントは」というふうに優先順位を明確にし、お客様にとって最も有益なメッセージがスムーズに伝わる表現と情報量に絞り込みます。

訴えたいポイントを絞り込んだパッケージ

店頭での存在感と記憶に残るパッケージ

商品が実際に売り場に置かれた時、ただ目立ってばよいわけではありません。周囲の同じカテゴリー商品と調和しながら、その中でインパクトのあるパッケージとなることが大切です。そのためには実際に売り場に足を運んで、イメージを膨らませることも必要です。また、一度手にしたら忘れられない個性のあるデザインが望ましいです。お客様がピートする際の手がかりとなるためです。商品名でもパッケージの色でも形態でも、記憶に残るポイントをつくっておくことが重要です。



それ、ウソです

丸山寛之

第42回

血液型異聞

「母親のつる代さんの血液型はA型で、娘の奈保子さんがO型。ところが会長はAB型。奈保子さんは、会長の子ではありえない」(「やめ判 新藤謙介 殺しの事件簿」2011年4月4日=TBSテレビ)

これは血液型の一般的な常識だ。「ウソ」ではない。だが、100%ホントとはいえない。AB型とA型の両親からO型の子が生まれることが、ごくまれではあるが、あり得るのである。

血液型は、A、B、Oという3種類の遺伝子の組み合わせで決まる。A型になるのは、両親からもらった遺伝子が「AA」か、「AO」の組み合わせの場合だ。「AA」は、父からも母からも「A」遺伝子をもらい、「AO」は、父母のいずれかから「A」を、もう一方からは「O」をもらったわけだ。Oは劣性遺伝子なので、AAもAOも同じA型になる。

同じように「BB」と「BO」はB型になり、「OO」の組み合わせのみO型になる。

そしてAB型は、両親の一方から「A」を、もう一方から「B」をもらった場合にみられるのが、普通だ。つまりA遺伝子とB遺伝子が、2本の染色体の上の一つずつ、のっかっているわけである。

ところが、1本の染色体の上にAとB、二つの遺伝子が並んで乗り、もう1本の染色体には乗ってない「シスAB」と呼ばれる特殊なタイプのAB型がある。シスとは同じ側という意味だ。

シスAB型は、染色体の交叉、あるいは突然変異によってできるもので、その発生率はAB型のなかの0.012%といわれている。

もしもドラマの会長が、シスABのAB型で、母親のつる代さんがAOのA型だったとして、遺伝子が乗ってないほうの会長の染色体と、つる代さんのO遺伝子の染色体が結合すると、娘の奈保子さんの血液型はO型になる。「会長の子ではあり得ない」とは、言いわけである。



丸山寛之 プロフィール
NPO法人日本医学ジャーナリスト協会会員。1932年、鹿児島県生まれ。新聞記者、医学雑誌編集者を経て医療ライター。著書=近刊『「がん」はいい病気』(マキノ出版)『読むサプリ』(明拓出版)のほか、「この酔狂な医者たち」「名医が治す」など。雑誌『壮快』に「名医に聞く」、地方新聞16紙に「健康歳時記」を連載中。

シスAB型は、血液学では常識だが、専門外の医師にはあまり知られていない。また、専門家でさえ手こずるボンベイ型というものがあり、これは表面的にはO型だが、A遺伝子やB遺伝子を持っていて、それが子どもに現れる。この場合、O型同士の両親からA型やB型の子が生まれることがあり得る。

実際、そうした例が報じられたこともある。

1990年10月16日号の『週刊女性』には、「独占取材 衝撃 学会報告 父=B型、母=AB型からO型の子が生まれた!! Aくん・和歌山県。母が不倫? 取り違え? トンでもない!」という記事が、97年8月11日の朝日新聞には、「父O型+母B型=子はA型 大阪医大 DNA鑑定で確認」という記事が、掲載されている。朝日の記事を一部引用する。

「これまで血液型の常識ではあり得ないと考えられていた、B型とO型の両親からA型の子供が生まれたという事例が、大阪医科大法医学教室の鈴木廣一教授によって確認され、このほどドイツの医学誌に発表された。デオキシリボ核酸(DNA)による鑑定では間違いなく両親の子供と確認されており、原因は血液型を決める遺伝子で組み換えが起こり、O型とB型の遺伝子から、A型のものによく似た遺伝子ができてしまったことらしい。」

このように血液型には非常に難しい問題が潜在しているのである。軽々しく論じるべきではない。いわんや、人の性格をたったの4種類に分けてしまう血液型性格判断においてをや……である。

